

2012年度予算編成について

本年3月11日に発生しました東日本大震災は、東北地方を中心に死者・行方不明者約2万人の人的被害をはじめとした未曾有の被害をもたらしました。犠牲になられた方々に対し心よりお悔み申し上げますとともに、被災された方々・地域の一日も早い復興を衷心よりお祈り申し上げます。

さて、本学においても同震災による被害を受け、各校舎等における原状回復や耐震補強の追加工事、建物の更新工事等が現在も継続して行われています。また、被災者への支援や被災地復旧のために、校友・教職員等から多くの義援金・寄付金を受け入れてきたほか、被災学生への学費減免や奨学金の支給、さらには被災地への教職員・学生ボランティアの派遣や、これからの中長期的復興や将来の震災に対する研究活動などへの支援等にも取り組んでまいりました。これらの事業資金は、前述した義援金・寄付金によるほか、大学の経常予算で措置してきました。

また、一方では、本学は建学の精神を具現化すべく、グローバル化推進等の教育研究体制の整備・構築や、D棟新築工事および戸山キャンパス再整備工事等の施設設備環境の充実にも努めてまいりました。

2012年度予算編成にあたっては、こうした支援事業の継続や、防災事業全般に予算措置を講ずるとともに、現状の教育研究環境を益々充実させていくために予算を措置していく必要があります。そのためには、新規の財源が必要となりますが、経済情勢は依然として厳しく、教育環境整備費の改定による収入増は見込めるものの、これらの事業経費をすべて捻出するための収入増を見込むことは困難な状況にあります。また、経常費補助金をはじめとする国等からの各種補助金の交付状況は増額傾向ではなく、不透明な状況にあります。

そこで、2012年度予算編成にあたっては、事業計画と大学財政の収支見通しとのバランスを考慮し、帰属収支差額を一定額以上確保して支払資金を安定させることを基本といたしました。また、防災関連事業予算や教育研究環境の整備・充実をはかるための財源を捻出するために、経常予算の一率3%マイナスシーリングや光熱水費の節減をメインとしたランニングコストの見直し等を実施することとした。さらに、各事業の優先度や金額の妥当性等を厳格に検証して、予算執行の効率化に繋げることを目標に予算編成を行うことといたします。

I. 大学財政の収支見通し

今後の大学財政の収支見通しについては、収入面では、授業料の0.7%改定や教育環境整備費の改定等に伴う増収により、2012年度の学生生徒等納付金が、現段階で2011年度予算額より約3億円増加することが見込まれています。

しかしながら、国からの経常費補助金の動向や、現下の経済情勢に伴う資産運用収入および受託研究等の事業収入の減少傾向等を考慮すると、学費収入以外は横ばいか減少が見込まれ、2012～2014年度の帰属収入総額は、約910億円の収入規模に留まることが予想されます。

一方、支出面では、人件費の増加などが予想されて、2012～2014年度の支出見通しとしては、消費支出合計で約900～910億円の支出規模で推移することが予想

されます。結果として、2012～2014年度の帰属収支差額（帰属収入－消費支出）は減少傾向となり、年々厳しい財政状況となる見通しです。

これに加えて、施設設備等の整備・充実のための基本金組入額が加算されますので、消費収支差額の状況は単年度で約60～100億円の消費支出超過額となることが見込まれ、このままの状態で推移すると、2014年度末には約1,290億円の累積消費支出超過額となる見通しです。この時点での減価償却累計額は約1,310億円と見込まれますが、支払資金にまで影響が及ぶほどの財政状態に陥ることが予想されます。

2012年度の単年度で見ると、収入面では、学生生徒等納付金等の収入確保に努めることで、帰属収入総額は現段階で約907億円が見込まれます。支出面では、諸経費の伸びを抑制しつつ、かつ新規事業に対して新たな財源を投入しない前提に立っても、人件費等の消費支出合計で約896億円の支出が見込まれ、結果として、2012年度の帰属収支差額が約11億円となるに留まり、厳しい財政状況となる見通しです。また、これに加えて基本金組入額が約69億円見込まれるので、最終的な現状の財政シミュレーションでは、消費収支差額は約58億円の支出超過額となり、翌年度繰越消費支出超過額は約1,109億円、次年度繰越支払資金残高は約248億円に減少する見通しであり、更に一層財政状態を改善しなければならない状況です。

II. 2012年度予算編成方針

2012年度予算は、現下の経済情勢に基づく大学財政の収支見通しを踏まえ、被災学生支援や、防災関連事業に対する予算措置を講じ、教育研究環境向上への取り組みに対する財政支出を可能な限り実現することを目指します。

また、前年度並みの繰越支払資金を確保するため、既存予算内での効率化を推進し、緊急性や優先度等を勘案しつつ、事業の選択に努めて予算編成を行うこととします。

このため、経常予算の一率3%マイナスシーリングや光熱水費の節減をメインとしたランニングコストの見直し等を実施して、一定額以上の帰属収支差額を確保することを目標とします。具体的には、2012年度予算は、次の基本方針を骨子として予算編成を行うこととします。

1. 新規事業計画

原則として、各箇所の新規事業については新たな財源を箇所で確保するか、または既存事業を見直すことにより、財源を確保することを基本とします。

「Waseda Next 125」事業については、新規事業に係る予算も含め前年度予算額と同額の範囲内で行うこととします。このため外部資金の導入や、事業の優先順位付け、絞り込み、実施規模の再検討を行うことにより、当該事業の推進を行うこととします。

2. 被災学生への支援

これまで決定した被災学生への支援策に対する予算措置を優先して行うこととします。

3. 管理運営

- ①安全管理の徹底のため、各校舎耐震強化改修工事等に必要な予算措置を講じます。
- ②環境政策として、地球温暖化防止対策に必要な予算措置を講じます。

4. キャンパス整備

各校舎耐震強化改修工事等の緊急性や安全性に配慮すべき工事を除き、今後の施設計画については、より厳選して予算額を抑制することとします。

具体的には、2012年度予算に、次の継続工事および新築工事の予算額を計上することとします。

- ①D棟（仮称）新築工事費
- ②戸山キャンパス再整備工事費
- ③中野学生寮新築工事費
- ④高等学院校舎更新建替え工事費

5. 予算編成上の指針

①経費の削減

- A. 奨学金や個人研究費等の予算を除き、経常予算の対前年度比一律3%削減を原則として実施することとします。
- B. 光熱水費予算については、CO₂削減のための節電や節水等を励行し、支出総額を前年度予算より約10%削減して18億円以内に抑制することとします。

②人件費関連予算の調整

人事業務委託費予算を含め、人件費予算全体の調整を検討することとします。

③外部資金の積極的獲得

補助金および競争的資金の獲得を徹底し、既存事業であっても外部資金による事業実施の可能性を模索することとします。また、競争的資金の積極的導入により、間接経費の增收を図り財政運営の一助とします。

6. 財務

①帰属収支差額の確保

帰属収支差額（帰属収入－消費支出）を一定額以上確保することを目指します。
(2012年度は10億円以上を目標とします)

以 上